

目的および方法： 本報は、世帯ごとに衣類の収納状況をトータルに把握することにより、ウォークイン・クローゼットが住宅全体の中で、衣類の収納スペースとして果たしている機能について分析する。さらに、今後それが衣類の収納にどのような影響をおよぼすかを考察することを目的としている。方法はその1と同様である。

結果： 各世帯の衣類の収納のしかたをみると、①和服は夫婦寝室や予備室など主に和室で「家族のものがまとめて」収納されている。②洋服類は使用季節・季節外とも個室を中心に「個人別に」収納されているが、ウォークイン・クローゼットでは使用季節の洋服類が、納戸では季節外の洋服類の収納がふえる。③下着類は「個人別」に個室に収納する場合と、居間や洗面所に「家族全員まとめて」しまう場合にわかれる。④衣類の収納には全体に家具がよく使用されているが、使用季節の衣類は「露出型収納」が、季節外では衣装缶や洋服箱の利用がふえる、という傾向がみられる。我々は、ウォークイン・クローゼットを納戸との比較において「個人的な居室に接続して設けられ、衣類など個人の持ち物を主に収納し、日常的によく使うために露出型収納を中心とした収納スペース」と考えている。実際、ウォークイン・クローゼットと納戸とでは、使われ方に若干の相違が認められる。しかし、ウォークイン・クローゼット本来の使われ方をしているケースは少なく、使用者や収納されているものの種類、収納方法の各側面から検討すると、ウォークイン・クローゼットと納戸との中間的な使われ方が最も多い。それは、ウォークイン・クローゼットが設けられているのが1戸当たりせいぜい1～2カ所であり、住宅全体からみた収納スペースの配置と量のバランスが、従来の収納スペースとほとんど変化していないためと考えられる。